

## 続 1970 年代ジャンク箱

J A 1 W O B 齋藤章

1970年代に成ると3C時が代到来して、カー、カラーTV、クーラーが一般家庭にも普及して来ました。

廃棄された白黒TVから容易に部品取りをする事が出来ましたが、真空管からトランジスタに変わりつつあり、アマチア無線をする為に、送受信機を自作する事が必要で無くなりつつありました。

メーカー製のRIGはトランジスタで小型化が進みまたHAM人口の増加に伴い、安価で無線機が調達出来る様になっていきました。

そのころに、私もモービルハムを始めました。

ラジオは、単体のトランジスタラジオからカセットテープレコーダーとラジオが一体となった、ラジカセが若い世代のステイタス的存在となりました。

また、BCLも盛んになりソニーを代表とする通信型ラジオのスカイセンサーなどが出てきました。スカイセンサーのICF-5800はBF0が付いていて、SSBを受信する事が出来る優れたものでした。

私は、ICF-5800より小ぶりのICF-5500で主にFM放送や短波AMを聞いていました。ANT端子もありましたから、ロングワイヤーを接続して短波のDX放送を聞いていました。但しBF0が無いのでSSBを聴くことは出来ませんでした。

1967年に発売した50MCのAM機であるTR-1000を、1970年頃に調達して、自作の不安定な送信機からお別れしました。

以来周辺機器の自作をしましたが、トランジスタによるトランシーバーの製作は行っていませんが、某SR社のラジカセ製造に携わっていたので、勉強のつもりで、オーディオのプリアンプやメインアンプをトランジスタで自作していました。

また、トランジスタ化したRIGの電源が必要なので、安定化電源を作り固定局の運用に使用していました。

当時作製した、5V~20VでMAX3Aの電源は、制御部のTRを交換しながら現在でもQRP機の電源として使用しています。

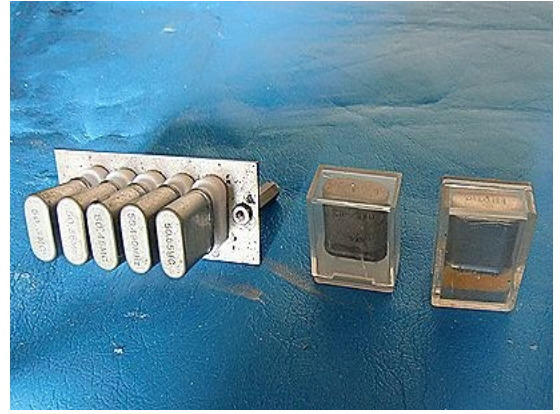
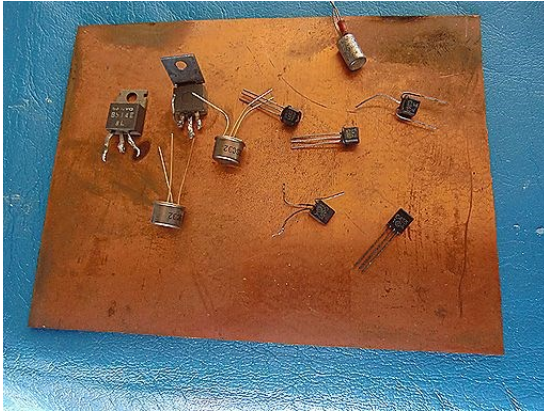
電源の上にFT-817NDが乗っていますが、RJX-601用の電源です。

そのころに使った、プリント版のエッチングに使う「酸化第二鉄」の500mlのペ



ットボトルがあり、30年経っても半分位の残っていて、勝手に処分出来ずに苦労して産廃処理しました。

写真は、プリント基板の上に乗せたTRとTR1000の水晶ユニット（5チャンネル）とメーカー用水晶のHC/6Uです。



モバイル機やポータブル機などの10W出力までのモノバンド機はALLトランジスタ化になりましたが、FT-101やTS-520などのHF機はファイナルの真空管が輝きを放っていました。

この頃になると、部品を集めて時間を掛けて、自作するよりメーカー製のRIGを購入する方が、コストパフォーマンスが良い事になってきました。

それでも、自作に拘るアマ無線家はオリジナルなRIGをメーカーの性能以上に製作する為に、RIGより高い測定器を購入していた様です。

立川の羽衣町にあった「杉原商会」は砂川町に移り「杉原電子」となり、部品販売以外に、測定器のSGやシンクロなどを沢山並べていました。

KWのリニアアンプ用の部品なのか、真空管のPxx球や大型のバリコンや、大型の電源トランスも並んでいました。

QRT状態だった私も小物部品の調達とジャンク屋の匂いを求めて時々通ってました。（下の写真は、パワーTRとC/RのジャンクとIFユニット？）



そんな時に、一人のハムがP球を見つけて。「やった、あった、あった」と云って喜んでいました。「何処から来たのですか」と尋ねると、「大阪から来ました、立川は遠いですね、東京駅から1時間かかりました。でもあってよか良かった」と云っていました。インターネット通販がまだ無い頃なので、自分の目で見てみないと安心でなかったのでしょうね。「これエミ減じゃないよね」店の人に聞いていました、店に人は、「大丈夫ですよ、チューブチェッカーで見ましようか」と言いながら、チェッカーの所へP球をもって行きました。(勿論OK)

60年代に、羽衣町にあった「杉原商会」でも100円位の安物真空管を、店の人にチューブチェッカーでチェックして貰った事を思い出しました。

その杉原電子も今は無く、建物も取り壊されています。

今は自作するハムもめっきり少なくなりましたが、稀に何か作ろうと思った時には、ジャンク箱の中から抵抗やコンデンサやトランジスタを探し出して作る事もあります。基板はユニバーサル基板で作成します。

出来上がった物を収めるケースは、100円均一のタッパーや小型のおかず入れが便利です。

右のユニバーサル基板に組んだのは、240の製作会で作成した4チャンネルメモリーキヤーです。

私のジャンク箱にある、トランジスタ類は古すぎて今では使い物に成りませんが何故か処分出ずにいます。

何か電子工作をしたい時は、インターネット通販で「ポチ」したり、瑞穂町にあるジョイフル本田の、模型ロボットコーナースイッチや電源ジャック、ユニバーサル基板などを調達しています。

そして、ジャンクがまた、少しずつ増えてしまいます。



終わり